

■ 島嶼スケッチ

鹿兒島大学 公開シンポジウムに参加して
吉岡 光一 (天城町長)

昨年は奄美群島日本復帰50周年を迎え、群島を中心に関係地域で数々の記念行事が開催されました。過去50年間の開発・振興に伴う歩み、それらを踏まえてのこれからの新しい奄美群島の創出はどうあればよいのか、多くの方々からの提言がありました。

今回、鹿兒島大学大学院人文社会科学研究所博士後期課程、全学総合プロジェクト主催による「新しい奄美世界の創出」をテーマとしたシンポジウムは、行政を担当している者として、大きな魅力と期待を抱いて出席いたしました。

大変密度の濃い企画で、しかも多面に渡っての問題提起と提言を直接伺うことができましたこと、誠に有り難く感謝を申し上げ、大学当局の皆様には敬意を表します。

特に感銘いたしましたことは、永田学長のもと全先生方が出前講座やこのような質の高いシンポジウムを開催して、地域開発と振興に貢献していく大学側の姿勢に大きな共感を覚えることであります。

第1部 奄美研究の過去・現在・未来、第2部 島嶼圏開発をめぐる諸問題、第3部 総合シンポジウム等から多くのことを学び示唆をもらいました。ありがとうございました。

ご出席いただき意見発表・提言をなされました諸先生方に感謝申し上げますと共に鹿大の益々の飛躍発展をお祈り申し上げます。

